

キャラクター名
原田 君彦

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	何でも屋	カヴァー	
	モルフェウス					
オプション			年齢	29	性別	男
覚醒	素体	衝動	闘争	初期侵食率	44	%
出自	名家の生まれ	経験	被害者	邂逅	喪失	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	3	1	0			4	行動値	2
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	7
精神	1	0	0			1	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達	3	
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	4	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手	白兵	4r	6	8		
拳闘	白兵	6r+10		13		エフェクト1+2。コスト4。
大拳闘	白兵	6r+10		13		上の+3。コスト8。ガード不可、装甲無視。
全戦拳闘	白兵	6r+10		25		「ポルターガイスト」使用。コスト8。ガード不可、装甲無視。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
パワーアシストアーマー	37	35	-10	-5	【肉体】のダイス+2個、白兵の攻撃力+5
アーマースキン		4			

所持品	
完全義体	
ウェポンケース	
ダーマルプレート	

合計装甲: 39 合計回避: -10

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	ダイス	消費
機械化兵	P	N		
犯人	P 感服	N 侮蔑		
失った従事者	P 純愛	N 疎外感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
黄金錬成	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	常備化ポイント+[LV×10]。侵食率+3。							
ハードワイアード	2	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果:	専用アイテム獲得。侵蝕率+4。							
ポルターガイスト	1	4	マイナー	至近	自身	自動	100↑	
効果:	所持している武器を選択し、そのシーン間、攻撃力+[選択した武器]にする。選択した武器は破壊される。							
アタックプログラム	5	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果:	達成値+[LV×2]							
コンセントレイト:ブラックドッグ	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果:	C値-LV(下限値7)。							
バリアクラッカー	3	4	メジャー	武器	-	対決	80↑	
効果:	ガード不可、装甲無視。シナリオLV回。							
マグネットフォース	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果:	カバーリングできる。							
万能器具	★							
効果:								
壁抜け	★							
効果:								
シークレットポケット	★							
効果:								
折り畳み	★							
効果:								
急速分解	★							
効果:								
効果:								

街で何でも屋を営む男。
苦手の食べ物機械の体をメンテナンスするために時々飲用するオイル。
好きな食べ物はほくほくのジャガイモ。
体は機械となっているが、できるだけ人間に近くするため、五感を感じる機能はついている。
逆にシャットアウトすることも可能。
戦いの際は、感覚の一部をシャットアウトすることで怯むことなく、闘争の衝動を振るう。
また、電磁力により、周囲の鉄を操ることができる。
鉄を集め、その塊を操る様、そして戦闘時に着るスーツの雛形となったことから、スカラベの異名を持つ。
フンコロガシ的な意味もあるため、本人は気に入っていない。
周囲の鉄を拳へ球状に集めて放つ「キャノンボールスイング」、電磁力による加速で飛び蹴りを放つ「マグネットスクラッパー」などの必殺技を使う。

元は名のある家に生まれ、何不自由なく暮らしていた。
転機は18のこと。
名家の後継ぎになるはずだった君彦は、従事者(メイド)と駆け落ちし、家を出た。
しかし始まるはずだった二人の生活はすぐに終わりを告げた。
二人が乗ったバスはジャックを受け、隣町へ向かうトンネル内で事故を起こして炎上爆発した。
次に君彦が目覚めた時、既に体は機械と変わっていた。
「裏」に通ずる家の者が、その技術を使って跡取りである君彦を生き長らえさせたのだ。
そして、君彦は最愛の人を失うこととなった。
現在は再び家を出て、何でも屋を営みながら当時の事件のことについて独自に調べている。